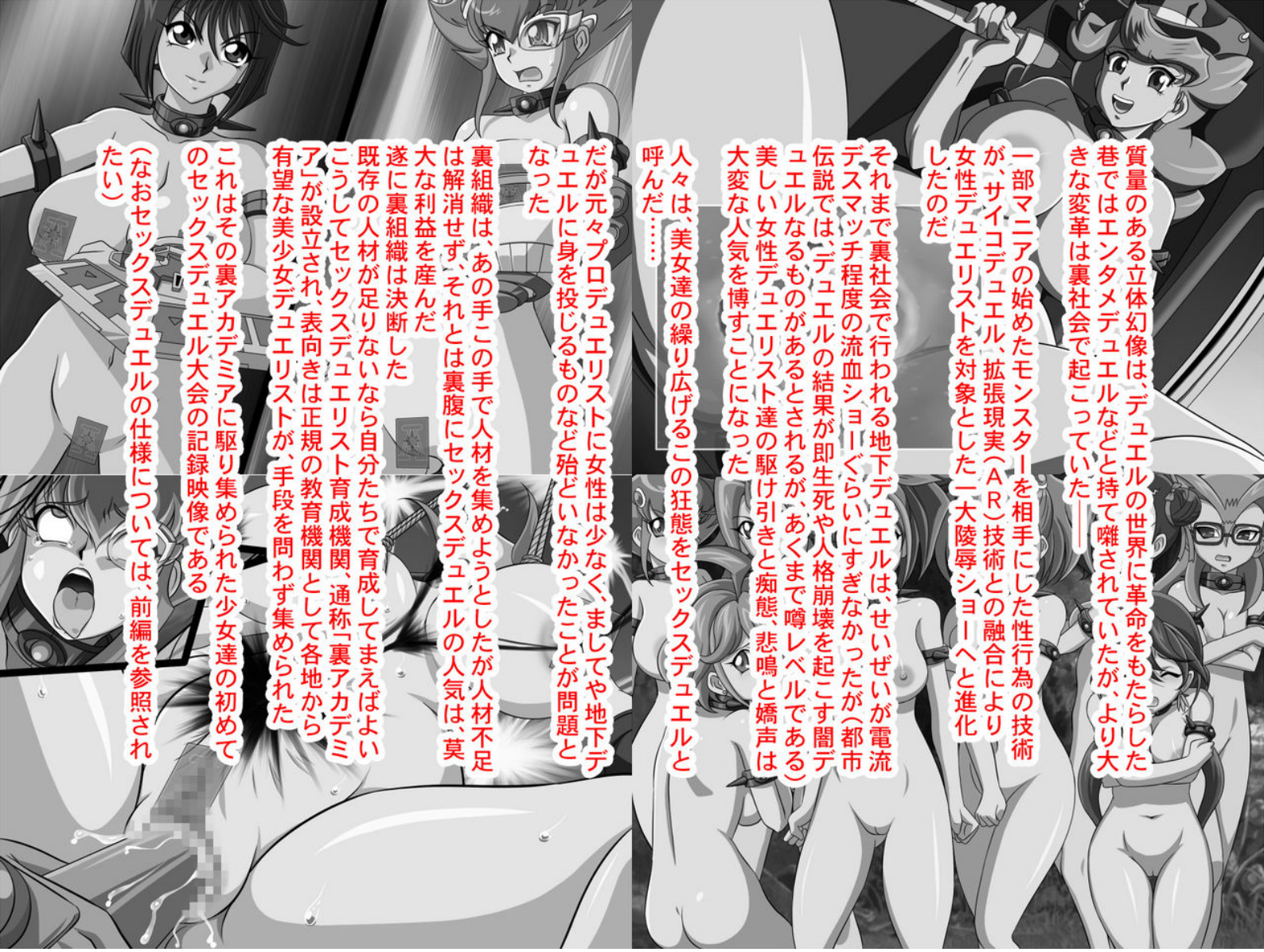
質量式立体映像のエロ的利用法
奴隷達の王国 後編
XXX Solid Vision 2b
GLAMOUR WORKS
ADULT ONLY



質量のある立体幻像は、デュエルの世界に革命をもたらした
巷ではエンタメデュエルなどと持て囃されていたが、より大
きな変革は裏社会で起こっていた――
一部マニアの始めたモンスターを相手にした性行為の技術
が、サイコデュエル、拡張現実（ＡＲ）技術との融合により
女性デュエリストを対象とした一大陵辱ショーへと進化
したのだ
それまで裏社会で行われる地下デュエルは、せいぜいが電流
デスマッチ程度の流血ショーぐらいにすぎなかったが（都市
伝説では、デュエルの結果が即生死や人格崩壊を起こす闇デ
ュエルなるものがあるとされるが、あくまで噂レベルである）
美しい女性デュエリスト達の駆け引きと痴態、悲鳴と嬌声は
大変な人気を博すことになった
人々は、美女達の繰り広げるこの狂態をセックスデュエルと
呼んだ……
だが元々プロデュエリストに女性は少なく、ましてや地下デ
ュエルに身を投じるものなど殆どいなかったことが問題と
なった
裏組織は、あの手この手で人材を集めようとしたが人材不足
は解消せず、それとは裏腹にセックスデュエルの人気は、莫
大な利益を産んだ
遂に裏組織は決断した
既存の人材が足りないなら自分たちで育成してまえばよい
こうしてセックスデュエリスト育成機関、通称「裏アカデミ
ア」が設立され、表向きは正規の教育機関として各地から
有望な美少女デュエリストが、手段を問わず集められた
これはその裏アカデミアに駆り集められた少女達の初めて
のセックスデュエル大会の記録映像である
（なおセックスデュエルの仕様については、前編を参照され
たい）

「さあ!中継を再開します!」
その胸の白く大きな双丘を揺らしながら、司会役のメリッサが声を張り上げる
背後には、参加メンバーの少女達の映像が映し出されており赤い髪の少女にはバツ印がつけられていた
「地獄のサイバイバルゲームに挑むいずれ劣らぬ美少女達!奴隷達の王国『スレイブキングダム』を生き残るのは誰か!残念ながら、早くもアンナ選手が脱落してしまいました!一番の巨乳だっただけに事前人気も高かったのですが……
……あーここで、本部施設にある通称『特訓部屋』と中継がつながりました
この機に脱落者が、どうなっているのかご説明しましょう
敗北した生徒たちは、裏アカデミアの特別講習室に送られ上級教官による特別実習を受けることになります
その内容は……一見は百聞に如かずと言いますので、映像切り替えますね」

そこはまさに地下牢と表現するしかない部屋だった
三方の壁は石造り、残った一方は鉄格子で塞がれている
デュエルに関係した施設では、カードイラストに準じた
内装にされるのはよくある話なので、これ自体は不思議
でもないが、問題はこの部屋が見た目通りの目的に使わ
れるのかどうかということであった……

アンナは鎖で吊り下げられた腕を動かそうと身を捩る
が、それはびくともせず、ただ己の人並み以上の乳房が
悩ましく揺れるだけであった

おそらくは先程のデュエルで敗北した後にここに運び
こまれたのであろうが、これから何が起こるのかを思う
と内心不安でしかなかった

とりあえずすることもないので、身動きもままならない
が自分の状態を確認してみることにした

己の拳以上の大きさの異物を股間にねじ込まれ、電撃で
胎内を貫き焼かれ激痛に悶絶し、正直死んだと思ったが
多少股間がひりひりする程度で、これといった異常は
感じなかった

しかし夢かなにかかと思うには、あまりにも生々しい
記憶で、技術的なことにはあまり関心のないアンナには
なんとなく立体幻像に関係するのではないかと考える
程度であった

鉄格子が金属音を響かせて開くとひとりの男が部屋に入ってきた
服の上からでもその筋骨たくましい様がはっきりとわかる大柄な
男であったが、アンナのあられもない姿を見ても眉一つ動かさず
下卑た欲望を見せる様子も欠片もなく、じっと観察でもしている
ような視線が不気味だった
沈黙に耐え切れなくなったアンナは大声で叫ぶ
「おい！黙って見てないで、さっさとこれをほどけ！それとここは
どこなんだ！アタシをどうする気だ！」

「……先程のデュエル……」
男が唐突に口を開いた
「如何に不可解な状況であろうとも、デュエリストたる者
ベストを尽くすべきだというのに己のデッキも確認せず
まともなタクティクスもなく貴様は敗れた」
「な！何言ってやがる！あんな妙なデッキ使えるわけが……」
だが男はアンナの抗議を遮る
「私のことは『教授』と呼べ。どうやら貴様には言葉で説明する
より、体に覚えこませるほうが早いようだな」
男――教授はカードを1枚取り出す
「パラサイト・フュージョナーを召喚！」
アンナの胸元に奇怪な生き物が現れるや、顔をよじ登り耳の
中に潜り込もうとする
「なッ！や、やめろぉッ！」
アンナが絶叫し頭を振って追いだそうとするが、それも虚し
く寄生生物は、ずぶりとアンナの耳に完全に潜り込んだ
「うぁッ！アァアアアアーッ！」
アンナは更に半狂乱になって暴れ始めた
突如アンナの頭の中に大量の情報が出現したのだった
それらはデュエルのカードのテキストであったり、
それらを使ったタクティクスであったりしたのだが、
その情報に対して目をつぶることも耳を塞ぐことも
できず、ただひたすらに認識させらるというのは、
アンナにとって苦痛でしかなかった

「これはな、貴様のような出来の悪い者向けの手法でな
効果の上がらぬ座学で時間を潰すより、よほど効率がいい」
苦痛に呻くアンナを前にしても、なんの感情もわかないのか
教授が冷徹な声で解説する
「はぁ……ハァ……」
ぐったりうなだれたアンナが荒い息を吐く
「どうやらインストールが終わったようだな
どれ、次は実地で体験してもらおう」
教授はアンナの後ろに回りこむとふとももに手をかけ、
赤子に用を足させるように脚を開いて持ち上げた
「ヒッ！」

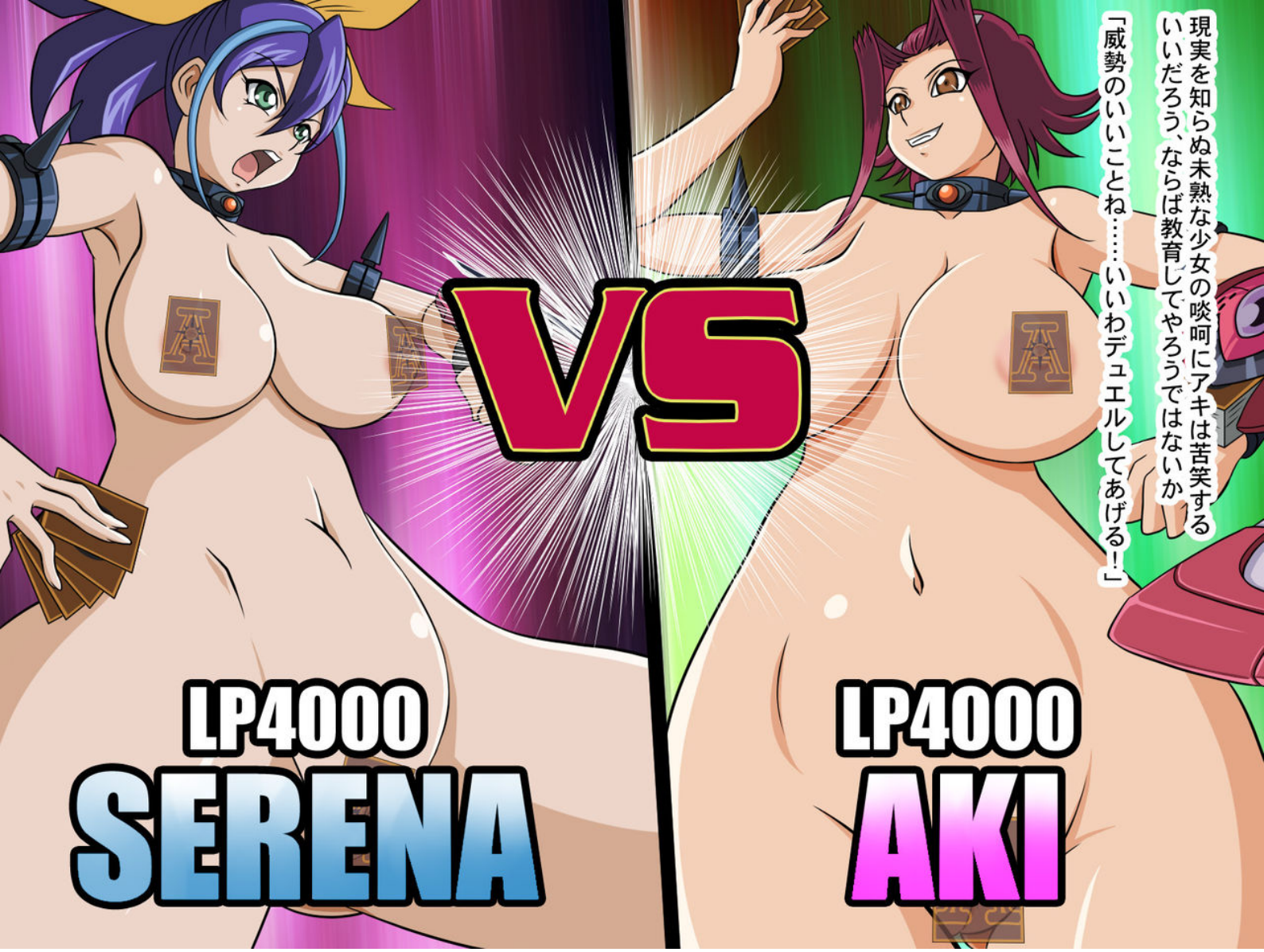
かすれた悲鳴を上げるアンナ
「い、一体なにをするつもりなんだ……」
「ふん、知れたことよ
知識は植え込んだ
だが体験せねば、それは知識でしかない
貴様には、覚えた召喚法を実際に体験して
もらってまさに体で覚えるのだ」
その瞬間、アンナの頭の中に無理矢理記憶
させられたカードの内容が駆け巡る
「い、いやだぁ！あんなことやるなんて！」
アンナの悲鳴を教授は無視する
「貴様たしかエクシーズ使いであったな？
ではまずこれからやってみせよう」
「種付けモンスター・ペニスネークを召喚！」
アンナの足元に一匹の大蛇が現れる
「ペニスネークの召喚に成功した場合、
デッキからさらにもう一体ペニスネーク
を召喚できる」
さらにもう一匹の蛇が現れた
「さあイクぞ……」
処刑執行人のような冷酷さで、教授は
アンナに告げる
「あ……アァ……」
これから起こることを予想し、アンナ
はもはや言葉にならない声を出すのみ
であった……

「ペニスネーク二体でダイレクトアタック！」
教授の宣言と同時に大蛇二匹が、アンナの股間に躍りかかる
「ぐふぅッ！」
アンナの膣と肛門それぞれを押し広げ、ペニスネークが柔肉を抉り突き進む
ペニスネークが蠢くたびにアンナは呻き声をあげ悶える
「種付けモンスターは、攻撃対象が妊娠可能なモンスターまたはプレイヤーの場合、通常のダメージ計算を行わずに対象を妊娠状態にすることができる！　さあ！孕め！」
教授の効果説明が終わるや、アンナの腹が風船のように膨らむ
「うぎぃぃぃぃぃぃッ！」

「この程度で音を上げるんじゃない！
ここからが本番だ！
種付けモンスターが二体以上同時に性交したことにより
特殊召喚が可能となる！」
「ペニスネーク二体でオーバーレイプネットワークを構築！」
エクシーズ妊娠！
「さあ現われろ……」
地下牢は閃光とアンナの絶叫で満たされた……

密林の中を裏アカデミアの教官アキが獲物を求めて進んでいた
彼女もかつては組織に捕らえられ、セックスデュエルを強要されていたのであるが、繰り返された快楽と苦痛に完全に心をへし折られ、現在では組織に忠誠を誓うセックス・デュエリストへと変貌していた
今や、地下デュエル界では「黒薔薇の痴女」と異名をとるほどの人気デュエリストになっている有りさまである
今のアキには、自分と同じような境遇の少女達を狩り、嬲り、快楽地獄へ叩き落とすことになんらのためらいも罪悪感も感じてはいない……むしろ他人を自分と同じ目にあわせるドス黒い喜びだけがあった
!

「おい！そこの女！」
誰かがアキを呼び止める
振り返ると木の影から、ひとりの少女が飛び出してきた
大きなリボンで髪をポニーテールにまとめた少女――
確かセレナとかいった――が、叫ぶ
「お前たちがなんのつもりかは知らないが、要は勝てば
いいのだろう？ならば私がみんなやっつけてやる！」


現実を知らぬ未熟な少女の啖呵にアキは苦笑する
いいだろう、ならば教育してやろうではないか
「威勢のいいことね……いいわデュエルしてあげる！」
VS
LP4000
SERENA
LP4000
AKI

「先攻は譲ってあげるわ」
「ふん！後悔しても知らないぞ……
私のターン！ドロー！アクションマジック『羞恥心』を発動！
このカードをリリースすることでライフを１０００回復する！」
セレナはまず、自分の左乳首にあったアクションカードを
もぎ取ると発動させ、ライフを増やす
「続けて速攻魔法『人工授精』発動！
種付けモンスターとの性交なしに妊娠状態にできる！
対象は私だ！……うぐぅッ！」
セレナの腹部が膨れ上がり妊娠状態になったことを表す
初めて感じる胎内の違和感に顔をしかめるセレナ
だがその戦意は衰えていない
「ターンエンド！」
（へえ……少しはタクティクスを練ってきたようね）
アキは多少セレナを見なおした
（だけど、それゆえに実験台には好都合だわね……
この新しい召喚法のお披露目といかせてもらうわ）

「私のターン、ドロー……いいわ……あなた、少しは楽しませてくれそうね」
アキはにんまりと笑う
「フィールド上に妊娠状態のモンスターまたはプレーヤーがいた場合、このモンスターをその装備カードとして特殊召喚できる……私はこのモンスターを攻撃表示でセットするわ」
「なんだと?」
セレナは周囲を見渡すが、なんのモンスターも現れていない
「おい!一体なんの……」
その時セレナの肛門が疼いた
「?!」
突如尻に感じた違和感にセレナは戸惑う
それは便意とは違った別の感触だったからだ
ピクッ
!?

「おい！そいつは一体なんのカードなんだ！」
アキに詰め寄ろうとしたセレナだったが一歩踏み出したところで力が抜けて、それ以上歩くことができなくなった
まるで誰かに肛門に指を突っ込まれたかのように腹に力が入らない……
「う……な、なにをしたんだ……」
バシ
「そうね……いい加減姿を見せてもいいんじゃないかしら？」
アキのからかうような声とともにセレナの肛門から、なにかが飛び出ようとする
カッ！

「冷たい炎が世界の全てを包み込む
漆黒で不浄の華よ、開け！現れよ！
アナル・ローズ・ドラゴン！」
アキの口上とともにセレナの肛門から
黒い竜が飛び出し咆哮する
突如己の体内から、現れた異形の姿に
セレナは声もない……

「アナル・ローズ・ドラゴンの効果発動！特殊召喚に成功した時、装備されたのがモンスターだった場合、そのコントロールを得る！または、装備されたのがプレーヤーだった場合、妊娠中の相手モンスターをこちらの召喚素材とすることができる！」
「！？」
「さあ！いくのよ！」
セレナの肛門から生えた竜が、その首を一気にセレナの膣へと突き刺した
「ひぎぃッ！」
二穴を貫かれる衝撃に悲鳴を上げるセレナ

「胎内のモンスターの妊娠カウンターにシンクロモンスターのレベルを足すことで即時出産を可能とする召喚法――
シンクロ妊娠！
「あガァァァァッ！」
胎内を吹き荒れる力の奔流にセレナはもみくちゃにされ絶叫するあらゆる内臓を鷲掴みにされたような衝撃とともにセレナの体は閃光を発し砕け散った

無様に足を広げ倒れたセレナの股間から黄色い液体が吹き上がり、そのたびに体を痙攣させていた
「……召喚不発？いえ違うわ……システムの安全機構が作動したようね衝撃が強すぎたのか……これは、改良の要ありと報告しなくては……」
倒れたセレナには目もくれずアキは、ぶつぶつと呟きながら背を向ける
セレナ、デュエル続行不可能と判定され敗北……
ビクッ
ビクッ
プシャ

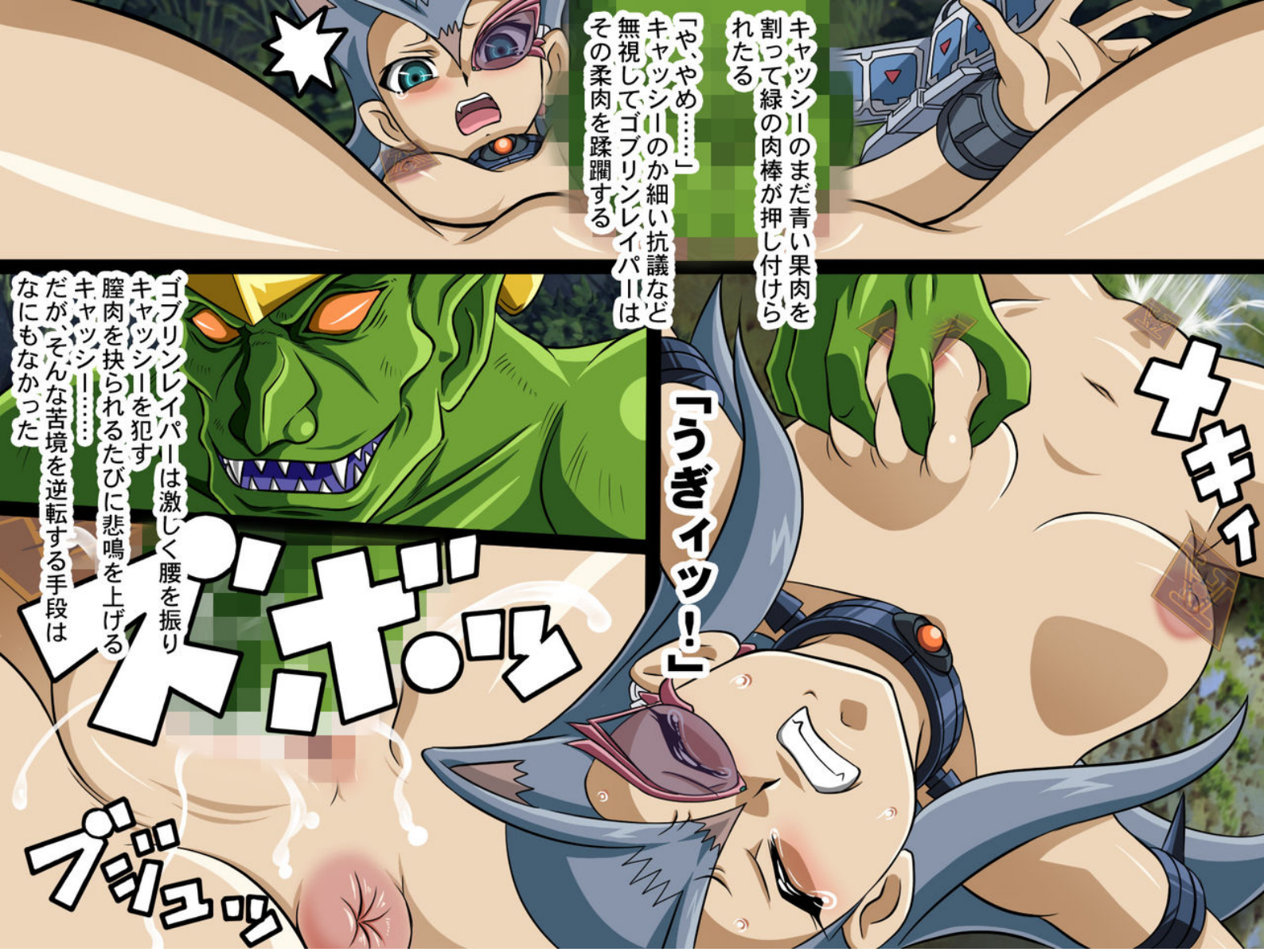
「ああっとここで二人目の脱落者がでました！
セレナ選手脱落です！デッキを解析してタクティクス
を練って挑んだまではよかったのですが……
相手は、あの『黒薔薇（性的）の痴女』！力及ばず敗退です」

「おや？どうやらハンター達が獲物四匹を同時に補足したようです
ここからは同時実況でデュエルを中継いたします！」

「ゴブリンレイパーでダイレクトアタック！」
「あぁ！……」
リンは現れたモンスターに怯えた声を上げ、
へなへなと座り込む
どうやら恐怖で腰が抜けたようだ
だがモンスターの怒張した男根を
眼前に見て我に返り、這いずって
逃げ出そうとする
だが、それはゴブリンレイパーに
尻を差し出したようなものだった
尻を掴まれ引き寄せられたリンの
秘裂を緑の男根が貫く
「い、いやぁあああッ！」
ズブッ
ズイッ

「ヒイィッ！」
瑠璃はモンスターに足を掴まれ悲鳴を上げた
ガバッ
なんとか抵抗しようとした瑠璃ではあったが
やはり慣れないしかも聞いたこともない内容
のデッキでは十分に戦うことはできなかった
たちまちのうちに壁モンスターも伏せカード
も破られ追い込まれる
ズッ
モンスターはその怒張した男根を見せつけるように
瑠璃を仰向けにしてから覆いかぶさる
秘裂を貫かれた瑠璃の悲鳴が響く……
ナ

ガバッ
「アァッ！」
触手に足を絡めとられた璃緒は
宙吊りに持ち上げられた
ギチ
足は広げられ股間を完全に曝け出さ
れる屈辱に璃緒は呻く
ギチ
なんとか逃れようと身悶えする
璃緒の股間に一本の触手が迫る
ズボッ
だが逃れることはできず、遂に
触手が璃緒の秘裂を押し広げ
貫いた……


キャッシーのまだ青い果肉を割って緑の肉棒が押し付けられたる
「や、やめ……」キャッシーのか細い抗議など無視してゴブリンレイパーはその柔肉を蹂躙する
ナキィ
「うぎィッ！」
ゴブリンレイパーは激しく腰を振りキャッシーを犯す
膣肉を抉られるたびに悲鳴を上げるキャッシー……
だが、そんな苦境を逆転する手段はなにもなかった
ドボ○ッ
ブジュッ

「も、もう許して……」
「ひぐッ……ひくっ……」
「あアッ！あーッ！」
「くッ！……この……離しなさい！」

妊娠召喚

「なんということかー！ここで四試合が同時に決着しました！選手側全滅！全滅です！」
メリッサが興奮した声で実況を続けている背後に出ている映像は一気に赤いバツ印で埋め尽くされた
「さあ！これで残る選手は二人！生き残るのははたしてどちらか！」
「おっとここでハンターが柊柚子選手を補足したようです！画面を現場映像に切替ます！」

「ふふ……あなた可愛いわね
楽しいデュエルになりそうだわ」
明日香は、いやらしい笑顔で
デュエルディスクを展開する

「あ……う……」
明日香の妖しい雰囲気に
押されたのか
まともに受け答えも
できない柚子

VS

LP4000
YUZU

LP4000
ASUKA

「私の先攻、ドロー！
私は手札から速攻魔法『露出天国』を発動！
フィールド上のすべてのアクションカードを破壊！」
これによりふたりの局部を申し訳程度に隠していた
アクションカードがすべて砕け散った
「な、なんで……」
「このデュエルはショーよ
私達の体を覆い隠す無粋な邪魔者を消し去っただけ
さあ楽しみましょ？ターンエンド」
「わ、私のターン……
……ってなんなのこのカード！？
これでどう戦えって言うのよ
タ、ターンエンド……」

「私のターン……私はサイバー・ペニスバン・ドラゴンを通常召喚！このモンスターは、妊娠可能なモンスターまたはプレーヤーの装備カードとなる……装備対象は私ね」

そう宣言した明日香の股間から、ずるりと金属の竜が這い出てくる

「ひッ！」

その異様な光景に息を呑む柚子

「この装備を身につけたことによりプレーヤーが直接攻撃を行うことができる……あなたにダイレクトアタックよ」

明日香は柚子の肩を掴み押し倒す

ずるっ

ドス

「アァッ！」

『ヒイッ！い、痛い！うぎぃッ！やめてッ
お願い！やめてぇッ！』
明日香に組み敷かれた柚子が、明日香が動くたびに悲鳴を上げる
ふたりの股間を繋ぐように貫いてる機械の竜は
どういう仕組みなのか明日香の膣から次々と
伸びて柚子の膣内に潜り込んでいく
ズボッ
グチュ
ジボッ
ジボッ
ジボッ
「いいわね……本当いい声で哭くわ
あなた」
「お願い……もう、許して……」
「まだ始まったばかりじゃない
ここで終わったら観客が盛り上がらないわ」
「？……ど、どういうこと？」
「気づいてない？この島には無数に監視カメラがあるのよ
いまこうやって私達が繋がってる姿は、全世界に中継されて
いるのよ？」
『……い、いやぁぁぁぁッー！』

「……こ、こんなの……こんなのデュエルじゃない！
デュエルじゃないわ！」
柚子が涙で顔をぐちゃぐちゃにしながら叫ぶ
「デュエルは皆を笑顔にするもののはずよ！
こんなのただひとをいたぶってるだけじゃない！」

だが柚子の悲痛な叫びを聞いて明日香は平然と答えた
「何を言ってるの？こうやって私が笑ってるのに、おそらくはこのデュエルを見てる人たちも喜んでるはずよ？
それにね……私も以前はあなたのように考えていたけれど、こうやって肉と肉をぶつけあい、曝け出して戦う姿こそが真のデュエリストじゃないかしら？
人として、女としての尊厳すら投げ打って、ただ自分の強さを証明するために戦う、これがデュエリストでなくてなんだというの？」
「く、狂ってる……」

「……そうね……確かに狂ってるのかもね」
明日香の雰囲気がガラリと変わった
表情はそのままだが目が死んだ魚のように生気がない
「なら……あなたも狂わせてあげるわ」
「!!」

「私は、サイベー・ペニスバン・ドラゴンのモンスター効果を発動！
このモンスターが妊娠可能なモンスターまたはプレーヤー複数に
挿入されていた場合、これらを同時に妊娠させることができる！
サイバー・ツイン・プレグナント！」
機械竜によって繋がれた明日香と柚子の腹が、急激に膨張する
「ッぐぅッ！」
腹部を圧迫された柚子が呻く
「更に手札からマジックカード『胎内融合』を発動！
フィールド上の自分が妊娠させたモンスターを融合する！
融合妊娠！
さあ！生まれいでよ！――」
『あッ！アッ！あアアッ！』
柚子の膨れ上がった腹の中に
明日香の腹から融合されるモンスター
を構成する力そのものが流れ込んでくる
のを感じる――
それは柚子の中のモンスターと混ざり合い
それまで以上の大きさへと爆発的に膨れ上
がり、その余波が柚子の体内の隅々までも
蹂躙する
そして柚子の体は閃光に包まれた……

画面の中で明日香が狂ったような哄笑をあげていた
それを見ていた少年は呟いた
「明日香さん頑張ってるなー、さすがオベリスクブルーの女王
裏アカデミアに推薦しておいて正解だったね……
あ……ブラマジ、もうフェラはいいよ」
少年の股間に顔を埋めていた少女――いやカードモンスター
ブラック・マジシャン・ガールが顔を上げて少年に尋ねる
「はい、マスター……気持ちよくなかったですか？」
「とんでもない！君のフェラが気持よくないわけないだろう？
気持ちよすぎて無駄撃ちしそうだから、もうやめていいって
だけだよ」
「ふふふ……お粗末さまです」
「さあ、じゃあ今日もたっぷりしようじゃないか……」

「それじゃあマスター……今日はどんな体位がいいですか？」
「今日はバックかな」
「はい……じゃあ失礼して……」
ブラック・マジシャン・ガールは少年の前に尻を突き出すと
少年の勃起した肉棒にあわせて器用に腰を沈める
「はうっ！あぁッ！す、すごい……
マスターのおちんぽいつもより大きいです！
はぁッ！こ、これ、たまらないです！気持ちいい！止まらない
腰が止まらないです！あッあッ！アァッ！アンッ！」
ブラック・マジシャン・ガールは嬌声を上げながら妖しく尻
をくねらせ、絶頂に向かって昇りつめていく……

「柊柚子選手敗北しました！
これで今大会優勝は観月小鳥！
観月小鳥選手で……
え？あ、ちょっとお待ちください
ただいま小鳥選手の信号がロストしてる
とのことです
詳細がわかり次第発表しますので
そのままお待ちください
では一旦中継を終わります！」
LOST
END